

安心して仕事と子育てを 両立できる職場

税務職員 平成22年採用
寒河江税務署 調査部門(個人課税担当)
柳沼 篤



現在の仕事内容を教えてください。

私は調査部門で、所得税や個人の消費税に関係する個人課税事務を担当しています。寒河江税務署は小規模な税務署なので、個人課税担当全員で窓口対応、書類の整理や調査など個人課税事務全般を担当します。

確定申告期間中は、申告相談に来る納税者に対応したり、提出された申告書の審査をしたりします。確定申告期間以外は調査を専ら行っています。調査では、実際に調査先のお宅や店舗に訪問して帳簿や領収書などの書類を見せてもらいます。また、必要があれば銀行や調査先の取引先に伺います。一件も同じ内容の調査はなく、自分で考えて展開させるところにとってもやりがいを感じています。



育児休業を取得する際の職場の反応を教えてください。

私が育児休業を取得する際に、同じ税務署内に育児休業を取得している男性職員がいたため、相談しやすい環境でした。また、私の育児休業の申し出を、上司は当然に受け入れてくれました。

実は妻の妊娠が判明したとき、私は1年間の長期研修を受講中でした。研修期間中、何度か埼玉県税務大学校に通校しなければならなかったのですが、妻の妊娠が判明した後は通校せず、オンラインで研修を受講させてもらうことができました。家族と離れずに研修を受講することができて、とても助かりました。



育児休業を取得してよかったことは何ですか。

育児休業を取得して、濃密に育児に関わると、出産直後の妻がどんなに大変な思いをして赤ちゃんの世話をしているのかがよく分かりました。また、いつもは妻にやってもらっていた料理や掃除なども私が担うことで、普段の妻の家事の大変さも身に染みて感じました。

Message

今回、6か月の育児休業を取得することを周りに知らせたとき、職場以外で返ってくるのは男性が長く育児休業を取ることが珍しいという反応でした。しかし、職場では育児休業を取得することは当たり前で、「育休取るでしょ？どのくらい休むの？」と復帰の時期を聞かれることが多かったです。その度に、我が職場ではいかに男性の育児休業が浸透しているかを実感しました。

みなさんも是非、仕事と子育てが両立できるこの国税の職場を目指してみてください。